

# A c a n t h u s

第44号

平成24年3月1日  
茨城県立土浦第一高等学校  
進修同窓会旧本館活用委員会



女学校「卒業式」に用立てた撮影現場 ←

昨年『おひさま』で“旧本館”がテレビ画面に映し出されると、その反響は物凄かった。全国に散在する同窓生からは、「胸がきゅーん」「びっくり&嬉しい」「懐かしい」「とても感動!」「感慨深いものが…」「青春の甘酸っぱい思い出一杯…」といった沸き立つ言葉が並べられた。一般の方々からは、「こんな校舎が残っているなんて羨ましい」「素敵なお建物!」「父の誇りだもん」などの賞する声が満ちあふれた。その『おひさま』にまつわる話題を特集した今号は、本小紙「Acanthus」が発刊されて丸4年の記念となる。感慨一入であり、今春の卒業生にもぜひ届けたい。

## ロケとセットの使い分け

連続テレビ小説は他のドラマとは全く違う性質を持っている。単発的な一回限りの放映に比して、短時間ではあるが、毎朝映るのである。昼にも再放送される。NHKで大河ドラマとこの連続テレビ小説は特別なものであるらしい。その制作にかける意気込みも凄いながある。

平成23年度前期の連続テレビ小説『おひさま』は、長野県の安曇野と松本を舞台に、戦前から戦後にかけての激動の昭和の時代を、明るく爽やかに駆け抜けた一人の女性の物語であるが、そのヒロイン須藤陽子が青春時代を過ごす「安曇野高等女学校」として本校旧本館がロケ地となったのである。撮影は平成23年1月に行われたが、これに先立ち、前年の秋から演出・美術・撮影・照明・音声など各担当者からなる大人数の下見隊が複数回訪れ、入念な事前調査をしていた。特に主要な場面になる復元教室では、壁面や床、それに柱や窓枠などの寸法や色などを詳細に計測していた。そこまでやるのかと怪訝に思い聞いてみると、この教室でのシーンはドラマの中で度々使われる。その都度土浦までロケに来るのは困難なので、東京・渋谷の放送センタースタジオ内に旧本館教室のセットを組み立てたことであつた。何せ国重文校舎である。教室の壁に紙一枚貼り付けることも出来ない。女学校の教室らしい雰囲気を作成するにはこうした制約があつたこともセットを設ける要因の一つであつた。昨年4月から5月にかけて放映されたこのドラマで、本校旧本館教室がしばしば映し出されていたが、時折、上げ下げ式の窓が観音開きの窓になっていた教室

の映像に、旧本館で学んだことのある卒業生などには若干の違和感を覚えた方も居られたかと思うが、これはセットだつ



放送センターに組まれたセットの教室での授業風景(壁には時計・額が、窓は観音開きになっている)  
(テレビ画面より)

旧本館復元教室での体育(武道・薙刀の稽古)の授業風景(復元教室は机椅子が撤去され、武道場となった)  
(テレビ画面より)



たのである。勿論、本物の教室での撮影も数多く行われた。女学生たちが鉢巻をし、気合いを入れて薙刀を振るうシーンは何回も繰り返し撮られていた。机を撤去した復元教室である。天井の高い部屋であつたとしても長い薙刀を振り回しての演技である。狭い教室という空間と演技者の動きを十分計算し、綿密な打ち合

わせを経ての撮影なのだが、電灯や壁などに当たりやしないかと肝を冷やしながら見ていたものである。

## 卒業生も騙された?

映画やテレビドラマなどは、こうした幾つものロケ地を巡って撮り集めた映像を繋ぎ合わせて一つの作品に作り上げていくのである。従って、出来上がった作品での場面は、必ずしもロケ現場の情景とは異なっていることがよくある。例えば『坂の上の雲』で、旧本館復元教室が海軍兵学校の教室として撮影されたが、放映されたドラマでは、まず重厚な煉瓦造りの旧海軍兵学校校舎が映り、場面が一転してその内部の教室の授業風景になる。視聴者は直前の校舎全景の残像効果もあって、この教室を疑いなく兵学校の一部として自然に受け入れてしまう。ロケに立ち会った私もですら本校復元教室の映像を危うく見逃すところであつた。

ドラマ『坂の上の雲』で  
兵学校の教室となった復元教室



『おひさま』では次のような笑い話も生れた。栃木県の知人からの電話で、毎朝、連ドラ『おひさま』をみている。陽子の通っている女学校になっている土浦一高の旧本館は素敵なお建物だ。それに陽

子たちが登下校する学校近くの古い街並も素晴らしい。一度訪れてみたいというのである。女学校場面は紛れもなく本校旧本館であるが、女学生達が下校時に立ち寄る駄菓子屋のある通りは、長野県の奈良井宿なのである。テレビでは、陽子の住む田園地帯の安曇野から学校近くの町並みを通り、女学校へ自転車通学する様子が滑らかな映像の流れで表現されている。素直に見れば学校は、昭和初期の雰囲気を残す古い街並の一角にあると思える。実際、ドラマはそのような設定で制作しているのだ。



陽子たちが登下校時に通る学校近くの町並み  
(この町に水飴のおいしい駄菓子屋もある)  
(テレビ画面より)

また、ある旧制中学時代の卒業生は、「安曇野の女学校が自分たちが学んだ土中の校舎とそっくりなのに驚いた。日本にはまだ一高旧本館のような建物が結構残っているんだな」と全く土中校舎であることに気づかずドラマを視ていたそうである。同じようなことを話してくれたのが、昨秋の本校文化講演会で講演をさ

れた長有紀枝(高34回)さんである。講演会の後、駆けつけた友人たちと思い出深い教室のある旧本館に赴いた際、『おひさま』の話題になった。「えっ?、あの女学校は一高の校舎だったの。毎朝視ていたけど、ちっとも気付かなかった。

そうだったの」と残念そうに話す彼女に、友人たちは「ドラマのタイトル画面に、撮影協力として一高の名前がちゃんと出ていたじゃない」「そう、ほんの一瞬なんだけど、茨城県立土浦第一高等学校とフルネームで書かれていたわ」：と彼女たちのお喋りはしばらく続くのだが、毎日忙しく多方面にわたりグローバルな活動をしている長さんにしてみれば、朝の連続テレビ小説は、ぎつしりとスケジュールの詰まった一日が始まる前の、心休まるひと時を満たす軽い絵巻物でしかなく、画面に時折、母校の一部が映ったとしてもそれに気付かないほどの気楽さでテレビと付き合っていたのであろう。

### テレビドラマのロケ地

それにドラマを制作するテレビ局側は、ロケ地などの情報提供にはあまり熱心では無いように思われる。昨年、『おひさま』の本校でのロケが終りかけた折、制作責任者が私のところにやって来て「素晴らしい建物でのロケをさせてもらい、ありがとうございます。お蔭様でいい作品ができそうです。それにしても大変申し上げにくいのですが、局の規定で、こうしたロケなどの撮影協力については、放映の際のタイトル画面に市町村名までしか表示できないのです。御校名が出せないのは私も残念なのですが」と云うのである。私もそういう決まりがあるのでは仕方がないと思いつつも、「何と

か学校名だけでも出して貰えればうれしいのだが」と駄目押しを試みた。「上に相談してみます」との担当者の返答を、この件についての締め括りの言葉として受け止めた。

昨年4月から連続テレビ小説『おひさま』は放映された。本校旧本館をはじめ回を重ねる毎に多くの撮影地が画面を賑わした。ヒロインの陽子が少女時代を過ごした美しい田園風景は、安曇野そのものである。よく出てくる水車やわさび田も、自転車で女学校に通う途中の蕎麦畑も、家族で出かけた清流も、すべて当地安曇野市で撮影されたものである。陽子の兄春樹が学んでいた松本高校も、現在松本市の「あがたの森公園」にある旧制松本高校校舎の本物を使った。しかし、親友の相馬真知子の住む家(豪邸)は鎌倉市にある「旧華頂宮邸」で、女学校近くの昭和初期の町並みは長野県塩尻市の「奈良井宿」で、戦時中、女学生たちが勤労奉仕に行った農家は茨城県常総市の「坂野家住宅」で、陽子が教師となつて勤務した有明山尋常小学校は茨城県大子町の「旧上岡小学校」(現在は廃校)で、それぞれロケされたものである。

こうした多くのロケ地を背景にした各映像の断片を継ぎ合わせ、融合集積されたものが、澁みなく展開されるドラマとなるのである。

しかし、撮影協力地として字幕で紹介されるのは、神奈川県鎌倉市とか茨城県大子町などと市町村名までで、実際どこで撮影されたかは殆ど分からない。

テレビドラマ本来からすれば、ロケ地などの具体的情報は不要なのかも知れない。いやむしろロケ地現場に思わぬ迷惑

を掛けまいとする制作者側の配慮からかとも思える。

このような背後事情があったにもかかわらず『おひさま』のタイトル画面に「茨城県土浦市」ではなく、本校名が堂々と表示された。殆ど期待していなかっただけに驚きもした。制作責任者とはこれまでに幾つかの仕事でお付き合いがあったとは言え、「上に相談」という約束をかくも誠実に果たしてくれるとは思ひもしなかった。

巨大な組織の規定を変えるには並々ならぬ困難があったに違いない。そんな中、自分の言葉に責任を持って奔走してくれた彼の誠意と行動力に心から敬意を表したい。

本校にとって校名まで出たということは勿論大きな意義と効果があった。だが、私にとっては、彼のような現場で黙々と作品作りに情熱を燃やし、人間関係を大切にし、言葉の重みを知っている人に出会った幸運が、『おひさま』からのプレゼントであつたと思つている。ついでながら、『おひさま』で一躍有名になった大子町の旧上岡小学校は、7月から訪れる人が急増したそうである。本校でも来館者は確実に増えた。中には長野県安曇野市から、わざわざ旧本館を見に来てくれた人もいた。

『おひさま』のタイトル画面 (テレビ画面より)

